

## 編 集 後 記

第 30 巻記念号をお届けいたします。

本巻ではまず特集で公教育経営における分権改革を検討しました。1998 年の中教審答申をきっかけに分権改革が進められてきましたが、それが実際にどのような実態や課題を生み出してきたのか、それは元々の理念や目的にかなったものなのか、などの点を学問的にきちんと点検し、そこから学校経営のありうべき姿を展望する必要があると考えたからです。

自由研究には 2 件の申し込みのうち 1 件が提出され、厳正な審査の結果、掲載されました。書評には 3 件の図書を取り上げました。林部一二氏は本研究会の元会員であり、ここで取り上げた図書は氏の学校経営に関する著作の集大成です。武井会員の図書は博士の学位論文、大協会員他の図書は研究と政策・実践のコラボレーションから生まれた図書です。内容的にも成り立ちとしてもそれぞれ特色のある図書を書評に取り上げられたことがよかったと思っています。

最後に、第 30 巻記念としてここ 10 年間の学校経営を振り返る座談会を掲載しました。学校経営の現実に関して、学問的な論文という形になる検討とは別に、具体的な現実と関わる中での実感などを大事にした検討の仕方もまた重要であると考えたからです。そのような仕方ですべて初めて成り立つリアリティもあるのではないのでしょうか。座談会のメンバーは様々な立場で学校経営の現実と関わってきた会員です。特集と対になるものとしてお読みいただき、資料ともどもご活用いただければ幸いです。

2005 年 3 月 31 日

編集委員長 水本 徳 明